

京町家の解体古材販売

木材商の丸嘉
ネット通じ 住宅設計の提案も

木材商の丸嘉(京都市、小畑隆正社長)は京町家などの解体で出る高品質の古木材を買い取り、インターネットを通じて販売する。柱や梁(はり)、蔵の扉など建具・民具を扱い、古材を使った店舗・住宅設計の提案も手がける。

木材卸のアイモク(愛媛県松前町、井上幸一社長)が運営する「古材ぐるめ」のフランチャイズチェーン(FC)に加盟し、主に京都府内で事業展開する。本部のホームページ「古材ねっと」に専用コーナーを設ける。

町家の持ち主から注文を受け、買い取れそうな柱や梁を鑑定し、解体業者を仲介する。持ち主は

古材の売却で解体・廃棄の負担が減る。丁寧に取外した古材は丸嘉が買い取り、保管する。京都の本社内にも専用ブースを建設中で、一部を展示し、九月三十日から商談を始める。年商一億円を目指す。

丸嘉によると築百年前後の町家は現在では人手

困難な国産のマツやツガなどを多く用いている。

木材は伐採百年後ぐらいから最も強度が増す性質がある。しかし、古材を扱う流通ルートが整備されていないため再利用されず、大半はチップに加工作している。

京都ではアンティークブームを背景に、町家を

改修した飲食店が好評で、インテリアとして使える古民具などへの引き合いも強い。